

# 上野幌・青葉地域

## 小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。この検討状況を、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしております。

2016.7.19 第11号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

### 第11回検討委員会 について

6月23日(木)午前10時から、青葉小学校で第11回の検討委員会を開催しました。

まず事務局から、個別に寄せられた意見の報告がありました。その後、統合後の校区と活用する校舎について検討を行いました。

### 報告事項

#### 個別に寄せられた 意見について

第10回検討委員会以降、電話で3件、メールで3件、手紙で8件、FAXで5件の計19件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 地域の思いもあると思うが、当事者である子どもと保護者の意見が一番に検討されないようでは、さらに少子化が進むのではないか。  
(平成28年3月 メール)
- 国道274号を横断させる保護者の不安や、中学校で離れ離れになる児童のことを考えて校区を検討すべきだと思う。  
(平成28年4月 電話)
- 「青葉小学校と上野幌小学校」、「上野幌西小学校と上野幌東小学校」の組合せで、それぞれの校舎を活用した場合のメリットや課題について比較検討する必要があるのではないか。  
(平成28年4月 メール)
- 統合の方向性や時期が分からないと、特に未就学児の保護者は不安を感じていると思う。  
(平成28年5月 電話)
- 国道274号で事故が少ないのは、現状では児童が横断していないからだと思う。校区を国道274号の北側と南側に分けて、それぞれ統合後に活用する校舎についてメリットや課題について検討するのが妥当ではないか。  
(平成28年5月 メール)

- 検討委員会ニュースをなるべく早めに発行してほしい。
- 通学の利便性や施設の状況等から、校区はサイクリングロードを境に北側と南側にするという結論にはならないのではないか。
- 将来的な小中連携の検討を考慮すると、青葉中学校に近い上野幌小学校を活用すべきではないか。
- 地域の違いは保護者には関係がなく、統合において一番に考えなければならないのは、各学年で安定した複数学級の確保と通学の安全ではないか。
- 統合校の校名は、子どもの気持ちを考え、既存のものではなく新名称とすべきではないか。
- ニュースに掲載する際に、寄せられた意見を「件数」で表記しているが、正しくは「通数」であり、1通の中に複数の意見が書かれているのであれば「何通、何件」と表記すべきではないか。

(事務局回答)

ご提案のとおり表記すると同じ意見を複数カウントすることになり、寄せられた意見の数に比べてニュース紙面への掲載数が少なく見え、事務局が意図的に掲載していないように誤解される恐れがあるため、従来通り寄せられたご意見1通を「1件」としてニュースに掲載させていただきたいと考えております。

(平成 28 年 3～6 月 電話・FAX・手紙で 14 件)

## ニュース第 9 号の訂正について

※「上野幌・青葉地域小規模校検討委員会ニュース第 9 号 (2016.2.29 発行)」の 6 ページ 3 行目で「上野幌東小学校」とすべきところを「上野幌小学校」と誤って表記しておりました。内容のチェックが不十分で、皆様にご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。なお、ホームページ上で公開しているニュースについては、既に正しい表記に訂正しております。

## 検討事項について

これまでの検討の経過を踏まえ、検討項目の優先順位について協議を行いました。

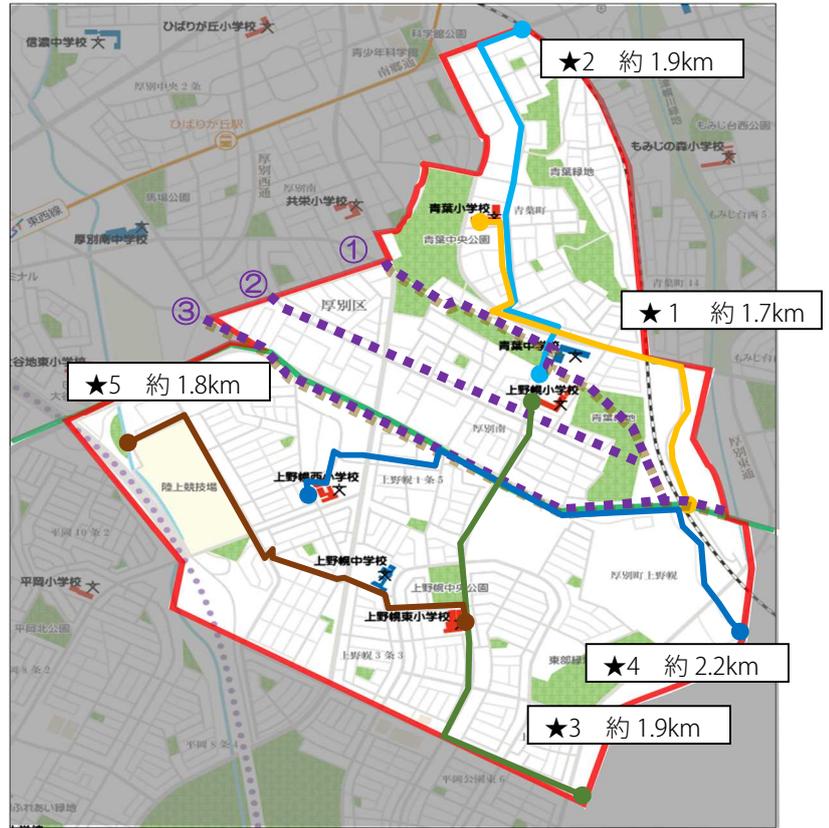
### ■統合後の校区と活用する校舎について

第 8 回での提案（統合後の校区はサイクリングロードを境に北側と南側とし、活用する校舎は青葉小学校と上野幌東小学校とする）に基づき、3 回に渡り検討を進めてきましたが、各項目についてさまざまな意見が出てまとまらない状況となっていることから、「『校区』と『活用する校舎』のどちらを優先して検討を進めるべきか」ということについて協議を行いました。

## 4 校の配置と校区案について

### 検討に当たっての確認事項

- 4 小学校の校区の範囲で適正な学校規模となるよう、統合校の校区や統合後に活用する校舎の検討を行う。
- 統合後の小学校でクラス替えができる児童数を確保する。
- 中学校の校区は現状のままで変更不要。



### ■北側エリアについて

	①サイクリングロード	②厚別南通	③国道 274 号
平成 34 年度児童・学級数	215 名 9 学級 ※	302 名 12 学級 ※	378 名 12 学級 ※
最長 通学距離	青葉小学校 上野幌小学校	約 1.7km ★1 約 1.9km ★2	約 1.7km ★1 約 1.9km ★2
進学する中学校	青葉中学校	青葉中学校	青葉中学校

### ■南側エリアについて

	①サイクリングロード	②厚別南通	③国道 274 号
平成 34 年度児童・学級数	558 名 17 学級 ※	471 名 15 学級 ※	395 名 13 学級 ※
最長 通学距離	上野幌小学校 上野幌西小学校 上野幌東小学校	約 1.9km ★3 約 2.2km ★4 約 1.8km ★5	約 2.2km ★4 約 2.2km ★4 約 1.8km ★5
進学する中学校	青葉中学校 上野幌中学校	青葉中学校 上野幌中学校	上野幌中学校

※児童・学級数の推計値は平成 28 年 5 月 1 日現在の住民基本台帳の数値に基づく

	①サイクリングロード	②厚別南通	③国道 274 号
校区案ごとの メリット及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北側の学校は統合しても複数クラスを確保することができない。</li> <li>○ 中学校進学時に児童の別れが生じる。</li> <li>○ 国道 274 号を横断する児童が生じる。</li> <li>○ 連合会の区域と校区とのずれが少なく、単位町内会も分断されない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北側の学校は将来的に複数クラスを確保できなくなる可能性がある。</li> <li>○ 中学校進学時に児童の別れが生じる。</li> <li>○ 国道 274 号を横断する児童が生じる。</li> <li>○ 連合会の区域と校区とのずれが生じ、単位町内会が分断される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南北の学校のいずれも将来的に複数クラスを確保できる。</li> <li>○ 中学校進学時に児童の別れが生じない。</li> <li>○ 国道 274 号を横断する児童が生じない。</li> <li>○ 連合会の区域と校区とのずれが生じるが、単位町内会は分断されない。</li> </ul>

個別に寄せられたご意見や検討事項について、各委員から以下のような主なご意見がありました。

### <寄せられた意見について>

- 匿名の複数の意見については事務局で要旨をまとめて報告してもらい、実際の検討の際に参考にさせていただくということではないか。
- 名前と連絡先等をお知らせいただければその都度対応できるが、複数の匿名の意見を全て検討し、その結果についてニュースに掲載することは時間的にも困難であるため、あくまで参考意見としてこの検討委員会の議論に活かしていればいいのではないか。

### <検討の優先順位について>

- 資料にあった「検討に当たっての確認事項」を踏まえ、校区を先に決定した後で、統合後に活用する校舎を検討すべきではないか。
- 地域性や伝統ということに着目した以前の案では話が進んでいない。この検討委員会の本来の目的である「各学年で複数クラスを確保」ということを考えるのであれば、まず校区を考えるべきではないか。
- 現在通学している校舎を活用してほしいのはみんな同じであり、それを優先していたら結論が出ない。まずは校区の議論をするべきで、統合後に活用する校舎はその後に議論するのがいいのではないか。

### <具体的な校区について>

- 国道 274 号の横断が非常に危険であるという意見は、最初から出ていた。それを踏まえると校区は、国道 274 号を境に北側と南側の組合せで話を進めていいのではないか。
- 国道 274 号を横断するということは、児童にとって相当の負担があり、校区は国道で区切ることが保護者の心情を汲むことになるのではないか。
- 放課後に友達の家遊びに行くことを考えると、校区は国道 274 号を横断しないようにするのが安全ではないか。
- 安全面を担保でき、なおかつ中学校で別れが生じないのは、校区を国道 274 号で区切ったときだけではないか。
- 上野幌東小学校区と上野幌西小学校区の児童数の減少が進んでおり、この 10 年で 3 割ほど減っている。これ以上先延ばしできない現状を考えると、校区は国道 274 号を境に検討を進めてはどうか。

### <活用する校舎について>

- 上野幌小学校を残したいという意見が、保護者の方から寄せられている。
- 上野幌小学校に入っている地区センターは、札幌市内でも利用率が低い。また利用者の駐車マナーも悪く苦情が寄せられている。地区センターに学校から撤退してもらえるのであれば、統合後の校舎として活用できるのではないか。

### <その他>

- たとえ統合後に活用する校舎にならなかったとしても、真駒内地域での統合のように跡活用で地域の人たちが、自由に使える場所としての機能を持てれば、地域の活性化につながると思う。
- 学校の体育館が閉校と一緒になくなることで困る人がたくさんいると思うので、残った校舎の活用法はしっかりと考えていかなければならないのではないか。
- 前回までは結局何も決まっていなかった状況だったので、検討の中で決まったことと次回以降検討することをはっきりさせなければ、議論が空転して終わってしまうのではないか。

## 決定事項と次回の検討事項について

第11回の検討委員会では、以下のことを決定し、それを踏まえ、次回の検討事項について確認しました。

### 決定事項

- ・適正な学校規模である「少なくとも1学年複数クラスを確保する」という前提に基づき、校区を優先して検討する。

検討の結果

**校区は国道274号を境とする**

根拠

- 統合校で適正な学校規模を確保できる
- 国道274号を横断する児童が生じない
- 中学校進学時に児童の別れが生じない

### 次回の検討事項

- ・それぞれの組合せで「統合後に活用する校舎」について比較検討を行う。

国道274号

北側

上野幌小学校と青葉小学校

南側

上野幌西小学校と上野幌東小学校

通学距離や施設状況等のメリットや課題を整理し、比較検討する

## 今年度の委員一覧

今年度に入り委員の交代がありましたので、全委員をご紹介します。

安島 秀好	上野幌東小学校 P T A	会 長	
井出 光典	上野幌西小学校	校 長	
北嶋 雅見	道銀地域総合研究所	業務部長	司会委員
猿丸 由紀子	青葉小学校 P T A	副会長	
塩川 直美	上野幌小学校 P T A	副会長	
島崎 圭介	青葉小学校 P T A	会 長	
白川 典洋	上野幌小学校	校 長	
城 哲也	青葉町自治連合会	副会長	
高平 弥生	青葉町自治連合会	女性部長	
高村 誠	美しが丘緑小学校	校 長	統合経験者
田村 芳子	上野幌東小学校 P T A	元副会長	
土田 義也	青葉町自治連合会	会 長	代表委員
長倉 五月	青葉小学校 P T A	書 記	
波多野 達郎	道宮厚別団地自治会	会 長	
平岡 英志	上野幌中央連絡協議会	会 長	
廣奥 玲子	上野幌東小学校 P T A	書 記	
福田 綾乃	上野幌西小学校 P T A	副会長	
前田 真希	上野幌西小学校 P T A	副会長	
光本 裕美子	上野幌西小学校 P T A	副会長	
山越 麻希子	上野幌小学校 P T A	副会長	
吉岡 敏幸	厚別南町内会連合会	副会長	代表委員
吉田 雅昭	上野幌東小学校	校 長	
鷺足 和枝	青葉小学校	校 長	
輪島 誠	上野幌小学校 P T A	会 長	

(五十音順・敬称略)

※下線は新任の委員

## 第12回の検討委員会 について

第12回の検討委員会は、8月中旬～下旬の開催を予定しており、今回の決定事項を基に、校区を国道274号の北側と南側に分けて、統合後に活用する校舎等の検討を行います。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

### 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル

TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ 検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>